



2014 MFJ全日本ロードレース選手権シリーズ 第3戦
スーパーバイクレース in もてぎ

TOHO Racing with MORIWAKI

JSB1000クラス

#104 山口 辰也 予選：6番手 (1' 49"697) 決勝：5位

TOHO Racing Powered by MORIWAKI

ST600クラス

#104 國川 浩道 予選：6番手 (1' 55"610) 決勝：5位

#16 宮嶋 佳毅 予選：18番手 (1' 57"318) 決勝：28位

TOHO Racing+おでんせーハトーブ

J-GP2クラス

#22 鎌田 悟 予選：21番手 (1' 59"361) 決勝：19位

5月24日(土曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ

公式予選

5月25日(日曜日) 天候：晴れ 路面：ドライ

決勝

開催地：栃木県 ツインリンクもてぎ (1周=4.801km)

入場者数：11,200人 (土・日合計)

栃木県・ツインリンクもてぎで全日本ロードレース選手権第3戦が開催された。今年、筑波サーキットでの開催がなくなってしまったため、関東圏唯一のレース。いつものメンバーに加えTOHO Racing+おでんせーハトーブから鎌田悟がJ-GP2クラスにスポット参戦した。



今シーズンに入り、自己ベストを毎戦塗り替えている山口は、今回も好調だった。Honda CBR1000RRの市販キット車を走らせて3シーズン目。マシンの年々煮詰まってくる部分はあるものの、大きな進化はなかった。しかし、今シーズンはサスペンションをKYBに変更したことで、エンジンパワーをしっかりと路面に伝えることができおり、ラップタイムの短縮につながっているのだ。また、ST600クラスの國川と宮嶋もKYBのサスペンションを使用。強力なサポートもあり、國川は前戦で初優勝を達成している。

今回もJSB1000クラスの公式予選はノックアウト方式で行われた。まず全車が出走するQ1が行われ、41台がコースイン。クリアラップを取ることは不可能だが、マシンのセットアップを進めながらセッション序盤に1分50秒277を出し6番手につけていた。そして上位10台によるQ2、トップ10チャレンジでタイムアタックに入る。まず1分50秒032をマークし4番手につけるが、周りもタイムアップ。山口も1分49秒697をたたき出し5番手に食い込むが、最終的に6番手となる。ST600クラスの國川は6番手、宮嶋は18番手、J-GP2クラスの鎌田は21番手で公式予選を終えた。



もてぎラウンドも天候に恵まれレースウィークは、すべてドライコンディションで行われた。決勝日も薄い雲に覆われていたものの、日中は半袖で過ごせる陽気だった。

19周で争われた決勝レース。セカンドロウイン側から山口は、好スタートを見せ4番手で2コーナーを立ち上がると、3コーナーで3番手に浮上！ そのままオープニングラップは3番手でコントロールラインに戻ってくる。レース序盤は、中須賀選手を先頭に、柳川選手、そして山口、津田選手、高橋選手と言う5台がトップグループを形成。山口の周りは、全てメーカー直系のマシンであり、堂々と渡り合う健闘を見せる。4周目のV字コーナーで高橋選手にかわされ4番手に後退するが、レース中盤まではトップグループにつけていた。この辺りからトップ2台が抜け出し、山口は、柳川選手と津田選手と3番手争いを繰り広げ、10周目に津田選手にかわされ5番手に後退。やはりメーカー直系のマシンに対しては、加速で離される部分があり、勝負を仕掛けるところまで行けないが、最後まで諦めずに、そのテールを追っていく。そのまま5位でゴールするが、ストップ・アンド・ゴーのツインリンクもてぎで、ここまで走れたことは、大きな自信となった。

この日最後の決勝レースとなった ST600 クラスでは、國川がレース序盤はペースを上げられずにいたが、トップグループが見える位置を走っていた。狙い通りにレース終盤にペースを上げるが、トップグループには届かなかった。しかしポジションを上げ5位でゴールした。宮嶋は、オープニングラップで13番手まで上がるが、2周目のV字コーナーで転倒。最後尾から追い上げ28位でチェッカーフラッグを受けている。J-GP2クラスの鎌田は、19位でゴールしている。



JSB1000 ライダー/監督 山口 辰也 コメント

「今シーズンのこれまでのレースで、トップとのレースタイムが一戦ずつ縮まってきているので、今回こそは表彰台、そして勝利を掴むためセットアップに力を注ぎました。金曜日の公式練習からセットアップは上手く進み、土曜日の予選までに路面コンディションに合わせての微調整をしていく程度にまで進めることが出来ました。土曜日の予選では、ツインリンクもてぎでの自分の今までのキャリアの中で、ベストタイムとほぼ同じタイムも出たので、後はレースでのスタート後のダッシュを決めることに全力で集中しました。決勝レースではスタートも決まり、3コーナーでは津田選手を抜くことが出来、序盤は3番手を走ることができました。しかし、少しずつ加速で離されてしまうので、進入で詰めていく走りをしたためタイヤを消耗させてしまい、少しずつ離されてしまいました。トップの近くで走ることが出来たことにより、何が足りないかを改めて確認することが出来たので、キット車を駆るプライベートチームでメーカーに勝てるように、菅生大会に向けて全力で進めていきたいと思えます。いつもご支援ご協力くださるスポンサーの皆様、ありがとうございました。そして、応援してくださった皆様、ありがとうございました。」

JSB1000 チーフメカニック 戸井田 剛 コメント

「レースウィークは、事前テストと路面状況が変わっておりライダーも苦労しましたが、予選では49秒台に入れることが出来たことが良かったと思えます。レースは、非常に良いスタートを切ることが出来、序盤は良い位置でレースを進めることが出来たことが良かったです。中盤以降は柳川選手と4位争いをしましたが、勝負どころが無く、前に出ることが出来ず残念でした。次戦はもう少しマシンを改善し、上位で勝負が出来る準備をしたいと思えます。」

ST600 ライダー 國川 浩道 コメント

「序盤にタイヤのグリップが出なく、ペースを上げようとするると転びそうになり、上げることが出来なかったため、トップグループとの差が広がってしまったことが今回の結果に繋がりました。中盤からはグリップが回復し、トップグループよりも速く走ることが出来ていたにも関わらず、5位という順位になってしまいました。今回の結果を反省し、次戦の菅生では優勝するために頑張ります。」

ST600 チーフメカニック 山田 寿和 コメント

「事前テストでの問題点を解決するべく、金曜日のART合同走行で車体の方向性を振りましたが、仕様を詰めることが出来なかったため、予選では前の仕様に戻して臨みました。このような流れからセットを詰めきれず残念な結果に終わりました。御支援、御協力を頂いておりますスポンサー様をはじめ、応援して下さっている皆様には申し訳ございませんでした。次戦の菅生では、これらを踏まえて勝てるように頑張りたいと思えます。」

ST600 ライダー 宮嶋 佳毅 コメント

「もてぎのレースは、テストからなかなかペースを上げることが出来ずに苦戦してしまいました。それでも決勝に向けてはチームのおかげで良い感触になり、レースはスタートから順位を上げていくことが出来たのですが、その後転倒を喫してしまいました。応援して下さった皆様には申し訳ない気持ちでいっぱいです。今回の経験を次にしっかりと活かしていきたいと思います。ありがとうございました。」

ST600 チーフメカニック 田原 啓至 コメント

「今回のウィークでは、マシンのセッティングをいい方向に進めていき、レースに臨む事が出来ました。しかしながら、まだ煮詰める部分はあると思うので、限られた走行時間でいかに早くセッティングを出せるかが課題です。レースでは転倒してしまいましたが、スタートも決まり、転倒後も再スタートして走行したので、レース中のデータを見て次に活かしていきたいと思います。次の SUGO では、ベストリザルトを残せるようチーム一丸となって頑張ります。」

総監督 福間 勇二 コメント

「JSB1000 クラスは、ブレーキの日信工業様、ローターのユタカ技研様、サスペンションの KYB 様に、最強の制動系と足回りの大変心強いご支援ご協力を頂き、トップグループとのタイム差が縮まってきており、確実に進化しています。次戦の菅生ではさらに上位を狙っていける自信があります。ST600 國川は、マシンを作り上げることが詰められず、不甲斐無い結果に終わり、ご支援ご協力を頂いておりますスポンサーの皆様、応援して下さっている皆様には大変申し訳ございません。次戦は万全の態勢で挑み優勝を目指します。」



株式会社 TOHO
TOHO Racing with MORIWAKI
TOHO Racing Powered by MORIWAKI
担当：野口